

白山千蛇ヶ池雪溪の越年規模の経年変化

○小川 弘司（石川県立大学大学院）、伊藤 文雄（元福井大教育地域科学部物理教室）

はじめに

発表者らは、白山にある多年生雪溪の千蛇ヶ池雪溪を対象に、その越年規模（面積）を 1981 年以降モニタリングするとともに、写真などからより過去の越年規模を、明らかにしてきた。

過去に 1981 年以降 2006 年までの越年規模の経年変化について発表した（小川・伊藤，2007）、今回、それ以降の越年規模を含めた経年変化について報告する。

多年性雪溪としての千蛇ヶ池雪溪

千蛇ヶ池雪溪は、白山の山稜西側の標高 2,570m 付近に位置し、白山火山の噴火活動によって形成された爆裂火口のすり鉢状の地形にある。周辺は東から南側にかけて急斜面が連なり、冬季の北西季節風が吹き込みやすい。これら地形的な要因のため、雪が吹きだまり易く、白山にある唯一の多年性雪溪として存在していると考えられる。雪溪のタイプとしては、吹きだまり型に属する。

また、千蛇ヶ池の名は山上で悪さをする千匹の大蛇を高僧が封じ込め雪で蓋をしたという伝承に基づくものであり、池と名がついてもその湖面がすべて見える事はなかったとされる。古文書には、古くは「千歳谷」と呼ばれ、雪が消えることなく数千歳を経ることからこの名がついたと記されている。このようにかかなり古くから多年性雪溪であったことが推察される。

調査方法

越年規模の測量は、雪溪が最小となりかつ降雪前にあたる 10 月上中旬に行った。2002 年の 10 月 13 日に雪溪及びその周辺部の測量を行い、ベースマップ（コンター間隔 1m、縮尺 1/500）を作成するとともに、雪溪域を測量した。また、GIS を使用してベースマップ上に 2001 年以前の雪溪規模の測量データを図化し、面積を求めた。この年以降引き続き毎年測量を行い、越年規模を測定している。

なお、2002 年以降の測量はトータルステーションやレベルを使用し測量を行ったが、それ以前については簡易測量や現地観察による年もあり、その精度にはばらつきがある。

雪溪の越年規模（面積）の変動

今回の 2007 年以降に限れば、越年規模は増減を繰り返しているが、総じて増加傾向にあり、2015 年の越年規模は 3,000 m² を超え 1981 年以降では、4 番目の規模となる大きさであった。

しかし、1981 年及び 1996 年には 4,000 m² を越える大雪溪となって越年することがあったが、近年はその規模に達することはない。

1981 年以降 2015 年までは、漸減を示していることに変わりはなく、よく知られた地球規模の温暖化傾向に類似する（当日図参照）。



千蛇ヶ池雪溪（2015 年 10 月 18 日撮影）

文 献

小川弘司，伊藤文雄，2007：白山千蛇ヶ池雪溪の変動と気象との関係．2007 年度日本雪氷学会全国大会講演予稿集）